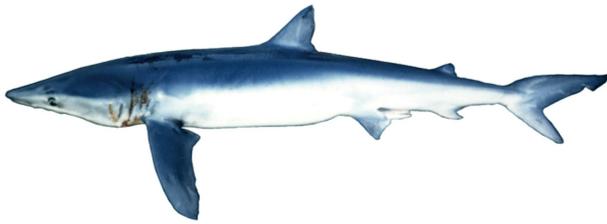


ヨシキリザメ 全水域

Blue Shark, *Prionace glauca*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)
 みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT)
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)
 インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)
 中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

最近一年間の動き

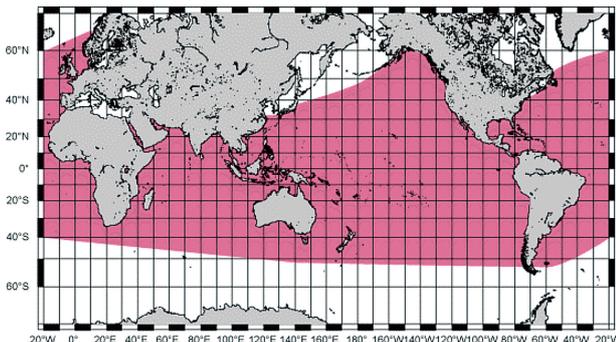
2011 年の日本主要漁港への水揚量は 5,100 トンであり、東日本大震災の影響を受けて過去最低を大幅に更新した。北太平洋では ISC によるヨシキリザメの資源評価に向けての準備が進められ、2013 年 4 月に資源評価が行われる予定である。

生物学的特性

- 寿命：20 歳以上
- 成熟開始年齢：雄：4～6 歳 雌：5～7 歳
- 繁殖期・繁殖場：初夏、北緯 30～40 度の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：幼魚は大型さめ類や海産哺乳類、成魚は調査中

利用・用途

肉はすり身など、鰭はふかひれ、皮は工芸品や医薬・食品原料、脊椎骨は医薬・食品原料



ヨシキリザメの分布 (Compagno 1984 より)

漁業の特徴

本種は全世界の熱帯から温帯にかけて出現し、外洋性さめ類の中で最も資源豊度が高いと考えられている。本種はまぐろはえ縄漁業で数多く漁獲されているが、混獲種であり、日本周辺の漁場を除き、遠洋水域で混獲されるヨシキリザメは外地で水揚げされるか放流されている。水揚げは宮城県の気仙沼港を中心に行われ、肉、鰭、脊椎骨、皮が食用や工芸用に利用されている。

漁業資源の動向

本種のはえ縄漁業等による水揚量は、1992～2011 年において 5,100～16,000 トンであり、2001 年をピークにやや減少傾向で、2009 年は少し回復したが 2011 年は過去最低を大きく更新した。

資源状態

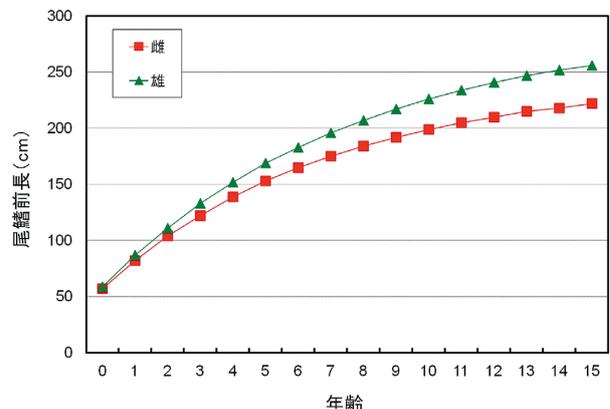
北太平洋では資源水準は中位であると考えられるが、2013 年 4 月に行われる資源評価により更新される予定である。大西洋及びインド洋では顕著な増減傾向が見られないことから、資源動向は横ばいであると推測される。

管理方策

資源状態に顕著な変化は観察されていないので、保護・管理に対する勧告は特に必要ない。ただし、資源状態は引き続き観察していく必要がある。今後、オブザーバープログラム等、資料収集方法を検討する必要がある。

資源評価まとめ

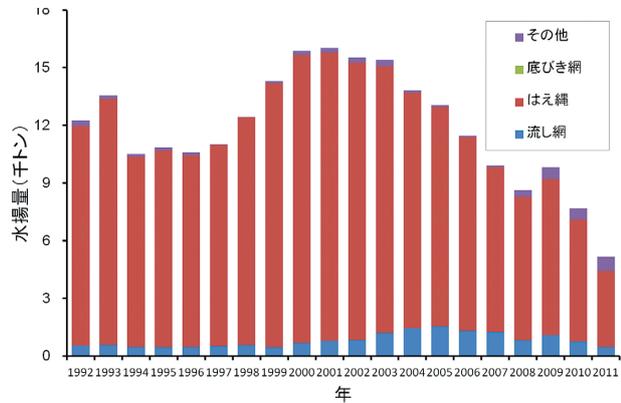
- 北太平洋において資源評価の準備が進行中。
- 長期的には資源は横ばい。



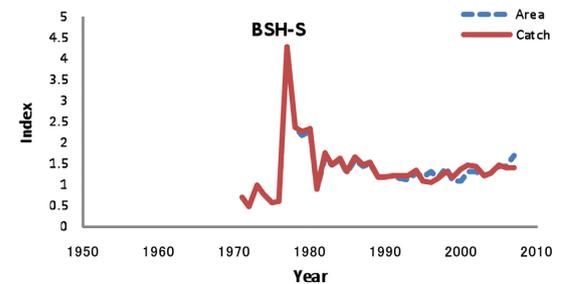
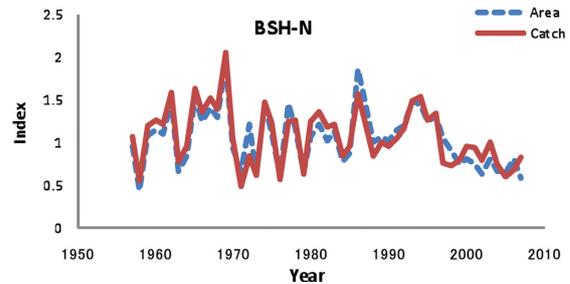
ヨシキリザメの年齢と成長 (中野 1994)

資源管理方策まとめ

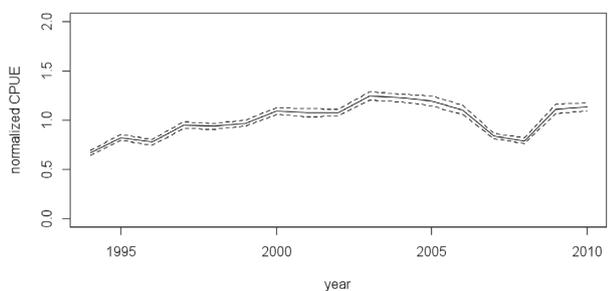
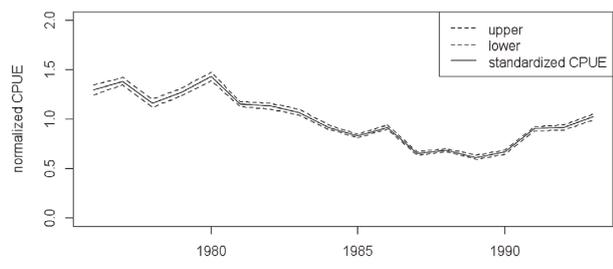
■保護・管理に対する勧告は特に必要ない。
 ■資源状態は引き続き観察していく必要がある。



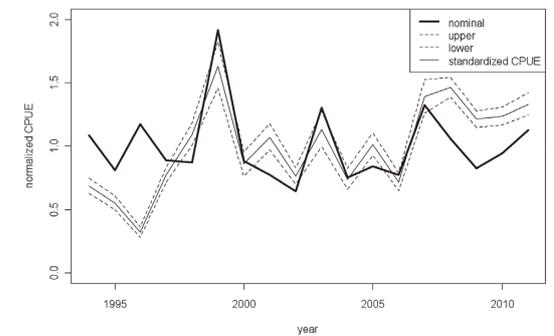
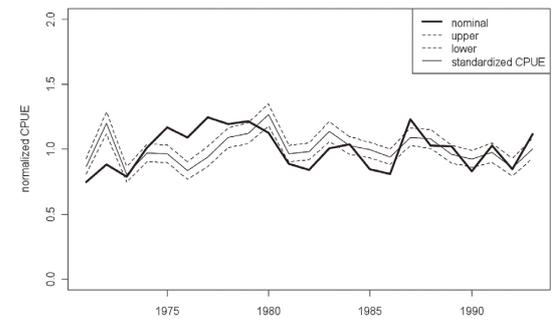
日本の主要漁港へのヨシキリザメ水揚量 (1992 年～ 2011 年)



大西洋におけるヨシキリザメの標準化された CPUE (上：北大西洋、下：南大西洋、1957～2009 年)。実線は重量、破線は面積で重みづけを行った標準化 CPUE を示す。



北太平洋海域において日本の近海遠洋まぐろはえ縄漁船により漁獲されたヨシキリザメの標準化 CPUE (上:1976～1993 年、下:1994～2010 年)



インド洋におけるヨシキリザメの標準化した CPUE (上：1971～1993 年、下：1994～2011 年)

ヨシキリザメ (全水域) の資源の現況 (要約表)					
	北太平洋	南太平洋	北大西洋	南大西洋	インド洋
資源水準	中 位	調査中	調査中	調査中	調査中
資源動向	横ばい	増 加	横ばい	横ばい	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	調査中	調査中	1.2～3.7 万トン 平均：2.8 万トン	1.8～2.8 万トン 平均：2.2 万トン	調査中
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.4～0.9 万トン (水揚量) 平均：0.7 万トン	調査中	1,700～2,500 トン 平均：2,000 トン	800～1,800 トン 平均：1,300 トン	調査中